

まえがき

★☆☆ 星占い・12星座・西洋占星術

星占いは当たるのでしょうか。

雑誌の星占いの記事はとても面白いものです。〇〇座のあなたはこういう性格、〇月は出会いの時期、この日はこんなことが起こりそう、と関心がある人にとってはたいへん興味深い内容が数多く書かれています。ただ、いずれも当たっている時もあれば当たらない時もあります。不思議だと思いませんか。これは太陽サインのみで判断しているから。西洋占星術では、その人の生年月日・時間・場所を正確に得た上で出生図・ネイタルチャート（ホロスコープ）を作り、星が表わしているものを丁寧にくみとっていくと、多くの過去の出来事とその人の人生の様々な点と符合しているのを見ることができます。また未来の予想を立てる事もできるのです。

原始、天文学の基本は星が季節と共に一年たつと戻って来る事に気がついた人々が、星の動きを元に暦を作って農耕に利用するようになったことから始まります。

夜空に散りばめられたあまたある恒星とは明らかに動きの違う、フラフラと惑うように移動する星た

ち、そのため太陽系の星たちは惑星と呼ばれるようになりますが、この惑星の動きこそが神からのメッセージではないかと古代の学者たちが研究を始めました。宇宙の星々は、地球上の人間の深い集合意識に常に働きかけていると考えました。

占星術は古代バビロニアで紀元前4000年頃には既に研究され、紀元前5世紀には12星座がそろっていたといわれています。カルデア人によってヨーロッパ、アジア圏、北アフリカへ伝承され、ギリシャ、アレクサンドリアで高度な天文学として発達しました。2世紀頃、アレクサンドリアの学者クラウディオス・プトレマイオスは占星術の古典といわれる「テトラビブロス」を著しましたが、彼は数学者、地理学者の他、天文・占星学者でもありました。占星術は当時科学的な学問だったのです。世の動き、人の生業に影響する地球全体の集合意識に働きかける星の影響は、科学的根拠はないといわれる現代においても完全に否定できず、多くの研究者により現在も絶えることなく研究され続けています

古代文明の唐突で急激な発達の様子には諸説ある中、一説に、ある日突然宇宙から何者かがやって来て文明を授け占星学として置いていったという説もあるやに聞きますが、これは夢のようなファンタジックな話だと思いつつも、宇宙と地球上の奇妙なシンクロニシティを数々見る時、仰ぐ天の遠い宇宙にロマンと深い奥義を感じざるを得ません。

16世紀、医療占星術を研究し医化学の祖と呼ばれた医師パラケルススは、占星術を使って多くの患者を助けたとされています。そして「人間の体内の星は、天の星がまず最初にしたことを模倣する。その結果、天の出来事が必然的に人間の体内にも及ぶのだ」という言葉を残しています。

出典：『詳解 月の正統西洋占星術』神谷充彦 学研パブリッシング 2009年11月24日 45ページ

天の星々と地上の人間の体内は呼応している、天の大宇宙・マクロコスモスに対し、人は小宇宙・ミクロコスモスと考えました。天に起こる事は地上の人間にも起こるといふ天地照応説です。

占星術は単なるあてものではなく、人類が手にし得た奥深い宇宙の叡智の結集なのです。

私は、はるかかなたからメッセージを届けてくれている星が語る事を自分自身にあてはめ、また世の事象にあてはめた時、星を読む力量にもよりますが、この占星術に大なるリスペクトと多大なる信頼を置いています。

この本は、占星術を基に新たに何かを生み出したものではありませんが、古代から現代にいたる占星術の深遠で神秘的理論と法則に則って、太陽サインだけでは物足りないと感じ、西洋占星術を学ぼうとされている初学者の方へ向けて占星術のエッセンスをお届けしていきます。